

エッセイ Essay



日々感謝を忘れずに、 私なりの架け橋の形で

豊橋地区日本中国友好協会理事

ちょう しょう
姜 上

1996年、私の父は国家特級調理師として日本に招聘され、名古屋の中国料理店に勤めていました。まだインターネットも普及されていない時代に、手紙と2週間に一度の電話が楽しみでしたが、離れている寂しさや今後のことを考え、私と母も来日することを決心しました。

初めての日本は今から17年前、まだ私が小学校5年生の時でした。「どんなところだろう?」「同じ顔なのかな?」「日本って遠いの?」などいろいろな疑問を抱えながら、初めて飛行機に乗りました。今でも鮮明に覚えている離陸と着陸の揺れ、まるでジェットコースターのようなようでした。初めての小牧空港、街並み、外国・・・私にとって何もかも新鮮でした。

4月になり、新6年生として小学校に入り、日本語が全く分からない私をクラスメイトは優しく受け入れ、ジェスチャーでコミュニケーションをとってくれたり、担任の先生も紙の日中辞典を引きながら私と会話してくださったおかげで、全く孤独を感じずに過ごせました。また教頭先生が週に1度、マンツーマンで日本語を教えてくださいました。1年間で私の日本語はあっという間に上達していきました。あの頃、先生やクラスメイトに出会っていなかったら、きっと今の私はいないと思います。

日本に来てから常に沢山の方に助けられ、恵まれていました。私は外国人であることに違和感を感じたことは一度もなく、豊橋市は私にとって第二の故郷でもあります。ここでの温かさや美しさをもっと中国へ伝えたいと思い、そして少しでも恩返しができるように、大学卒業後豊橋市役所に入庁しました。5年間の勤めの中で、職場の上司や同僚、同期に囲まれ、

市民の優しさを感じながら、中国との交流にも携わることができました。

現在豊橋市はゴールデンルートとして、毎日沢山の外国人が訪れています。市民の方はもちろん、ここに住む私たち外国人もPR大使として、豊橋市の良さを全世界へ伝える義務があると感じています。逆に豊橋市民のみなさんへ自国について紹介することも国際交流に繋がると思います。私は今豊橋市役所を離れましたが、この日中で育った経験を活かし、今後も私なりの形で日本と中国、そして豊橋市と友好都市である南通市の架け橋にもなりたいと思います。私が感じた日本の良さ、日本人の優しさ、日本文化の尊さを中国へ、また中国の文化や伝統を日本へ伝えながら、各分野の深みのある交流に役に立てられるように尽くしたいと思います。

人と人の交流は、国籍や人種、民族に関係なく、心で感じ合っています。この純粋な友情を身をもって証明し、お互いを尊重しつつ、今後様々な分野において深みのある交流に少しでも役に立てられるように全力を尽くしていきたいと思います。今後とも、この愛する豊橋を市民として誇りを持ち、暮らしていきます。



父と静岡のキャンプ場でソーセージ作り



従姉の結婚式で

*姜さんはFMとよはし「とよはしザ・ワールド」7月放送に出演します。